

## サプリメント関連資格

複数の資格が混在、医療従事者向けの専門性高い資格も

資格取得者数の多い順で順位を付けると全体の9位。一方、この資格に「興味がある」と回答した薬剤師数のタイプ別の順位は、「患者支援」と「バランス」で2位だったものの、「専門家」では16位で、タイプによって資格への興味にばらつきがあった。

サプリメント関連資格には、取得のしやすさや研修のレベルが異なる複数の資格がある。

日本臨床栄養協会の認定する「サプリメントアドバイザー」の場合、資格を取得できるのは、医師、薬剤師などの医療従事者のほか、予防医学や健康食品に関連した業務の従事者。サプリメントの機能や安全性、医薬品との相

互作用、関連法規などを幅広く学ぶ専門研修（通信教育）を受講し、認定試験に合格することで資格を得られる。

このほかのサプリメント関連資格には、NHP インターナショナル認定機構が認定する「メディカル・サプリメント・アドバイザー」や、国立健康・栄養研究所が認定制度を運用する「栄養情報担当者（NR）」がある。前者は

医師や薬剤師など医療関連の国家資格保持者のみ、後者は、原則として医療関連国家資格保持者か、栄養学、保健学などの学位保持者が取得できる。

**資格取得まで**▶「サプリメントアドバイザー」の場合、日本臨床栄養協会の会員となった上で、専門研修を受講あるいは日本臨床栄養協会の学術大会への参加により40単位以上を取得すれば、認定試験（年1回）の受験資格を得られる。更新は5年ごと。

### こう思う！資格とキャリア

- ▶小児薬物療法認定薬剤師がこれから創設されるらしいので、取得を目指したい。（30代・薬局薬剤師）
- ▶日々の業務に即した、臨床医学を勉強したい。（50代・薬局薬剤師）
- ▶スポーツファーマシストのように健

- 康な人を対象とした専門性の強化は大切。その分野で、ビジネスができる仕組みを。（30代・薬局薬剤師）
- ▶薬局の管理や業務改善の専門家として生き残りたいので、中小企業診断士の取得を計画中。（30代・薬局薬剤師）
- ▶勤務先の大学病院では、認定薬剤師より、博士号を取得する方がメリットがある。（30代・病院薬剤師）
- ▶薬剤師という職自体に限界を感じ

- ており、医師になるべく医学部学士編入の勉強中。（30代・薬局薬剤師）
- ▶資格を人事考課に組み入れてもいいと思う。（40代・薬局薬剤師）
- ▶将来、資格が診療報酬に反映されるようになることを期待している。（40代・病院薬剤師）
- ▶キャリアアップすれば処方権を得られるなど、レベルに応じてできる仕事が多ければ常に上を目指して頑張れる。（30代・薬局薬剤師）

